参考様式A5（自己評価等関係）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーキッズ			
○保護者評価実施期間	2025年1月10日		～	2025年1月20日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	27	（回答者数）	15
○従業者評価実施期間	2025年1月10日		～	2025年1月17日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	（適切な支援の提供）午前の部、午後の部にわかれており、個別療育・集団療育ともに提供しており、利用者様の個々のニーズに対応できている。	保護者様のご意向を尊重しつつも、児童本人にとって最適な療育環境をご提案している。 利用者本人の学びにとってより良い環境を日々行動観察から分析している。	園生活への支障が最小限で済むように、午前はなるべく早い時間でのサービスを求める声が多いため、配置や療育環境を見直して、できる限り受け入れしていきたい。
2	（子ども及び保護者の）満足度	療育施設であると同時にサービス事業でもあるため、児童が「楽しかった！」「毎日来たい」「次は何して遊ぶんだろう」と、わくわく感を持ってもらい、リピーターとなっていただけるような遊びを提供するようにしている。	子どもや保護者のニーズを優先するため、特にご要望の少ない父母の会の実施や地域交流などは、優先順位が下がっている。 地域にとって必要な場所となるように、地域にも開けた運営を行っていきたい。
3	（環境・体制整備）活動スペースが確保されている。	・机上遊びと運動遊びで活動スペースを構造化している。 ・運動スペースについては、遊具を置いても児童が十分に体を動かして遊べるように配置を工夫している。	・部屋の広さを広げることは現実的に難しいが、遊具の配置や一度に活動する人数をグループ分けなどで調整することで安全に過ごせるように工夫していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や幼稚園など、事業所外の児童と触れ合う機会を設けていない。	・普段と異なる環境が苦手という特性を持つ児童が多い中で、通常の療育と異なる行事等を行うリスクとメリットを天秤にかけ、リスクの方が高いと判断している。そういった判断に至った要因としては、児童がエラーやパニックを起こした際の、職員の対応を統一することが困難と判断したためである。園生活の中で加配保育士等が１名ついた状態で集団生活を過ごしている児童が多いため、職員４～５名体制ではフォローしきれないと判断している。児童に失敗体験と認識させたり、集団参加への苦手意識が増幅することを懸念している。	・通常時から、イレギュラーが起こった際の予想される児童の反応を話しあい、対応のすり合わせを行う。 ・職員数でカバーできない場合には、児童を少人数にわけて実施したり、希望者を募り人数を限定したりして、実現可能な方法をっ検討していく。 ・園生活で経験しているので、ふれあう機会は不要とのご意見を過去にもいただいたことがあるため、実施に向けてはどういった形が望ましいのか、保護者様のご意見を丁寧に聞いていく必要がある。
2	ペアレントトレーニングや家族支援など実践的な支援ができていない。父母の会の実施やきょうだい児の支援等。	・個別のご相談が多いため、個々にご家庭での児童との接し方や環境設定などお伝えおり、特に大々的に行うことに必要性を感じていなかった。 ・保護者様が求める情報に、それぞれ差があるため、テーマ選びが難しい。	・保護者様にご意見をいただく機会を設ける。開催の場合はテーマや人数、規模など、ご意見をうかがいながら慎重にすすめていく。 ・きょうだい児の支援については、周知を徹底する。療育の空き時間等に家庭訪問したり、事業所に来てもらったりするなど、相談日を設けるなどする。
3	非常時の対応	・取り組み自体は実施しているが、情報発信が徹底できておらず、認知されていない。	・訓練など実施した際にはHUGで全体に様子をお知らせする。 ・マニュアルなどは保管場所が見て分かるように、明示しておく。 ・非常時の対応（避難場所や経路）について、定期的な情報共有を実施する。